

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

アルコール依存症の治療・支援にかかわる医療者のニーズに基づいた
教育研修プログラムの開発

研究分担者 杉浦 真由美

研究要旨

教育研修プログラムを開発するためには、どのような人材を育成する必要があるのかニーズを把握する必要がある。そのため、「アルコール依存症にかかわる医療者に必要な資質」に関するニーズを調査した結果、専門的かつ最新の知識に加えて、柔軟かつ多職種で連携して対応できる人材が求められていることが明らかになった。研修の設計では、参加者が学んだ知識を実際の現場で活用できるプログラムの必要性が示唆された。

A. 研究目的

教育研修のオンライン化は、IT 技術の発展や社会的状況、参加者のニーズなどにより急速に普及している。オンラインを中心とした教育研修は、コロナ禍における緊急避難のためだけのものではなく、オンラインのメリットが活かされた形で今後も推進されるであろう。こうした中、精神科医療分野においても、より実践的な医療者を養成するとともに、オンラインでも知識やスキルが習得できるプログラムの開発が喫緊の課題となっている。

教育研修プログラムの設計や改善を促進する理論的枠組みとして、教育工学で提唱されているインストラクショナルデザイン（Instructional Design: ID）がある。ID は学びの効果・効率・魅力を高める手法の総称であり、教育研修の設計・改善のフレームワークに ADDIE モデルがある。ADDIE モデルの構成要素は、Analysis（分析）、Design（設

計）、Development（開発）、Implementation（実施）、Evaluation（評価）であり、システマティックに授業を構築するモデルとして応用されている。

本研究では、アルコール依存症に関する医療研修をモデルとして、ID に基づく多職種参加型の教育研修プログラムを開発することを目的とする。なお、令和4年度は、設計に至るプロセスまで実践した。

B. 研究方法

a. アンケート調査

教育研修プログラムを開発するためには、どのような人材を育成する必要があるのかニーズを把握する必要がある。そのため、「アルコール依存症にかかわる医療者に必要な資質」に関する調査を実施した。

調査時期は 2022 年 12 月 22 日から 2023 年 1 月 5 日で、調査対象は研究分担者らが定期的開催している「アルコール依存症実践塾」の参加者 31 名である。調査は

Google フォームを用いて実施し、本研究では2つの設問を分析対象とした。

設問1：アルコール依存症治療を行う医療者にとって、重要な要素は何でしょうか優先度の高いもの3つ（知識、判断力、思いやりなど19項目、その他：自由記述）を選択してください

設問2：あなたがアルコール依存症治療の研修を受けると仮定した場合、どんなことを学びたいですか（自由記載）

b. 分析方法

自由記述の分析は、記述内容からキーとなる文脈を抜き出し、2段階にかけて抽象度を上げ、意味内容の共通性と相違性を比較しながら類型化した。

c. 倫理的配慮

本研究は、さいがた医療センター倫理委員会にて承認を得た。データ入力・分析では、個人が特定できないようにナンバリングをして処理し、調査により得られた情報は、その目的にのみ使用した。研究対象者には、以上を文書で説明した。

C. 研究結果

a. 分析結果

教育研修に望む要素として「困難事例への対応」「個別性を踏まえた対応」「先達の知恵」「多職種連携」「最新の知識」などが挙げられた。医療者に必要な資質として柔軟性（45.2%）、チームワーク（38.7%）、知識（32.3%）などが抽出された。

b. 教育プログラムの設計

プログラムの設計では、より実践的な知識とスキルの習得を目指すことを目的として、eラーニング（講義コンテンツ・確認テスト）と演習（リアルタイムオンライン）で構成した。コンテンツのトピック

は、アルコール依存症に関わる基本的かつ最新の知識や考え方に加えて、「依存症支援の魅力」「家族の心理と支援」「多職種連携の魅力」などを含めた。

D. 考察

アルコール依存症にかかわる教育研修プログラムを開発するためには、どのような人材を育成する必要があるのかニーズを把握する必要があった。そこで、「アルコール依存症にかかわる医療者に必要な資質」に関する調査を実施した結果、専門的かつ最新の知識に加えて、柔軟かつ多職種で連携しながら対応できる人材が求められていることが明らかとなった。さらに、教育研修に臨む要素として「困難事例への対応」「先達の知恵」などが抽出された。

これらの知識やスキルを習得するためには一方的な情報提供にとどまらない研修の設計が必要であり、参加者が学んだ知識を実際の現場で即時に活用できるプログラムの必要性が示唆された。今後、多職種協働によるコンテンツ開発を推進し、実践的かつ教育の効果・効率・魅力を高めたプログラムの構築を目指す。

E. 結論

アルコール依存症に関する医療研修プログラムを開発する前段階としてニーズ調査を実施した結果、知識に加えて、柔軟かつ多職種で連携しながら対応できる人材が求められていることが明らかになったとともに、研修の設計では、参加者が学んだ知識を実際の現場で活用できるプログラムの必要性が示唆された。

付記：本研究は厚労省障害者政策総合研究事業の助成を受けたものである。